



北中だより



<http://nk-kitanaka-j.la.coocan.jp/>

中野区立北中野中学校

★「実りの秋」に向けて大きく前進するために…

校長 津村 慶

44日間の夏休みが終わり、前期後半の学校生活が始まりました。ここから冬休みまでの4カ月間は、1年間の学校生活の中でもっとも長い期間です。新年度のスタートとなる4月から7月までは、新しい環境に慣れたり、クラスや部活動の仲間との関係づくりを進めたりしたと思います。夏休みが終わり、これから始まる学校生活は、不安に感じることや気になることも少なく、何に対しても集中して取り組むことのできる期間になるはずです。生活面でも学習面でも、大きく力を伸ばしてほしいと願っています。

今年の夏の大イベントと言えば、やはりオリンピックでしょう。7月26日から開催されたパリ・オリンピックでは、日本は45個のメダルを獲得し、多くの感動が生まれました。その中の一人、男子柔道66kg級で東京、パリと2連覇を成し遂げた阿部一二三選手は以前、「何事もコツコツと積み重ねていかないと結果は出ない。」とインタビューで答えています。また、スケートボード女子ストリートで金メダリストとなった14歳の吉沢恋選手は競技後のインタビューで「実感はわからないけど、努力してきた良かった。努力が身になったと思う。」と答えています。

夏休みの間、皆さんはそれぞれ目標をもって過ごし、努力してきたことでしょう。夏の暑さに負けず部活動で技を磨いた人、ボランティアや地域の行事に積極的に参加した人、毎日のように塾や図書館でコツコツと努力を積み重ねた人など、多くの場面で皆さんのがんばっている姿が見られました。その成果を9月からの学校生活の中でどのように発揮していくのか。鍵となるのは「継続」です。

スポーツでも芸能でも、もちろん学習でも、努力が成果として現れるまでには数か月の期間が必要です。1カ月ほどのがんばりで見違えるような結果が出ることはそれほど多くはありません。しかし、この夏休みに積み重ねた努力は、確実に皆さんの中に「力」として蓄積されています。その「力」を結果に繋げるために、これまで積み重ねた努力をここでやめてしまわずにもう少し続けていきましょう。学校生活が始まっても、工夫をすれば時間は生み出すことができます。「継続は力なり」という言葉を聞いたことがあると思います

が、成果が出る前に努力をやめてしまうと、結果に繋がらないことがあります。サッカー界のスーパースターであるリオネル・メッシ選手も「努力すれば報われる？ そうじゃないだろ。報われるまで努力するんだ。」と言っています。これまでの努力を9月からの学校生活の中でも続けていけば、必ず大きな成果となって表れる時がきます。自分自身を大きく伸ばすために、目標としている所にたどり着くために、夏の間積み重ねた努力をこの先も続けていきましょう。

卒業生による受験生活講話

夏休み直前の7月16日(火)、現在高校2年生の卒業生5名に来てもらい、中学3年時の夏休みの過ごし方や受験勉強の進め方、志望校選びや高校生活についてなど、高校受験を通して経験した様々なことを3年生に話してもらう会を開きました。先輩方からは実際に経験したからこそその貴重なアドバイスをたくさんもらい、受験の準備を本格的に始めるためのヒントを得ることができました。がんばれ、3年生!!

先輩からのアドバイス(一部抜粋)

- ◆中学校の授業をちゃんと受ける。内申も大切だし、都立高校ではそれほど突飛な問題は出ないので、きちんと授業を受けて理解することが大切。
- ◆受験勉強は正直つまらないが、勉強には終わりがなくて、社会に出てからもずっと続いていくものなので、やっておいて損はない。
- ◆スマホで遊ぶのはいつでもできるけど、受験に向けた準備は今しかできない。だからスマホから離れる努力をした。
- ◆面接練習では、インターネットで見つけたおじさんの顔写真の目を見て話す練習をした。
- ◆高校は、自分でやりたい事をやりに行き力を発揮する場所だから、自分から行動しないとダメ。
- ◆高校を見に行くと、自分が通う実感が湧いてやる気が出てくる。だから実際に見に行くことが大切。
- ◆自分の実力より上の集団を選んでついていくのか、自分がある程度上にいられる集団の中でゆとりをもって過ごしていくのか、自分のタイプをよく見極めて高校を選んだ方がよい。



バージョンアップした「北中フェスタ」が大盛況でした!!

7月26日(金)に「北中フェスタ」を開催し、近隣の小学生や幼稚園・保育園の子どもたち284名とその保護者の方々157名が来ていただきました。

昨年までは「北中サイエンスフェスタ」として理科の内容を中心に行っていましたが、今年はより多くの子どもたちに北中の楽しさを知ってもらうため、従来の理科のブースに加えて野球、サッカーのスポーツ教室やバドミントン・ゴルフのアトラクション、紙すき体験やお箏の演奏体験、射的や輪投げ、ヨーヨーやスーパーボールすくいその他、生徒会本部役員による北中紹介と学校探検ツアーなど様々な趣向を凝らしたブースを開設し、内容を充実させました。

当日は179名の北中生がボランティア・スタッフとして参加し、各ブースで子どもたちにやさしく教えていました。小学生や未就学の子どもたちが、北中への進学を楽しみにしてくれることを願っています。



「北中 STAGE」と「きたなかの花火大会」もさらにパワーアップ!!

「北中フェスタ」の後、夕方からは昨年と同様に「北中 STAGE」と「きたなかの花火大会」を開催しました。

「北中 STAGE」では3組のダンスとソロの歌、2組のバンド演奏が行われ、体育館はコンサート会場のように盛り上がりました。北中生の多彩な才能に感心するとともに、どの出演者に対しても温かい応援の声掛けと拍手があり、客席のマナーも気持ちのよいものでした。

校庭での「きたなかの花火大会」にも、昼間と同様に昨年よりも多くの人が集まりました。青少年育成上鷲宮地区委員会の方々が受付から花火のチェック危険防止のパトロールまで、様々な運営をしてくださり、多くの人々が安全に手持ち花火を楽しみました。花火大会を締めくくる打ち上げ花火では、花火師の資格を持つ方が準備をくださったので、昨年以上に見ごたえのある打ち上げ花火が連続し、大きな歓声が上がっていました。



学習面でもがんばりました!!

「北中フェスタ」が終わった翌週の7月29日から、学年ごとのスケジュールで「夏季レベルアッププログラム」が行われました。前期前半の授業を振り返って、特に重要なところをもう一度学習し、確実に身に付けることで9月からの授業につなげていくための学習補充教室です。7月31日の様子では、3年生は塾や高校見学で忙しいのか人数はやや少なめでしたが、1・2年生は25名ほどの生徒が集まり、教科担当の先生の説明を聞きながら問題を解いていました。学期中の授業とは少し違ったリラックスした雰囲気の中で皆それぞれに自分の課題と向き合っていてがんばっていました。

また、お盆休みの週を除いて開館していた図書館には、毎日たくさんの生徒が訪れ、夏休みだけで延べ115名が学習に励みました。中には毎朝開館と同時に来て、約4時間、集中して勉強に取り組む生徒もいて、決めたことをやり抜く意志の強さに感心しました。



「笑顔あふれる北中野ファミリー」NEWS !!

【保幼小中連携】リトル・ティーチャー・ボランティア

夏休み期間中、小学校の図書館開放に合わせて中学生が「リトル・ティーチャー・ボランティア」として小学生の学習を手伝いました。

上鷲宮小学校で7月22日から24日までの3日間、武蔵台小学校で22・23・25・29日の4日間、延べ49名の中学生が立候補して宿題や学習をしに訪れた小学生にいてねいに学習支援を行いました。

始めは小学生も中学生も少し戸惑っている様子がありましたが、中学生が優しく声かけすることで小学生も安心して勉強を教わるようになりました。中学生が小学生の面倒を見る様子は見ていてとても温かな気持ちになり、ボランティアに参加した中学生をととても誇らしく感じました。



【保幼小中連携】中野区保幼小中連携サミット

「生徒会役員による学校紹介」



中学校ならではの行事もたくさん紹介！



交流活動の充実

「かみさざぎ幼稚園での保育実習」



交流活動の充実

●上鷲宮小学校へザリガニ釣りに行く(5月)



交流活動の充実

「小学校への運動会ボランティア」



8月26日(月)、令和小学校で開催された中野区保幼小中連携サミットに参加しました。前半に体育館で行われた全体会では、区内9つの中学校区を代表して、北中野中学校区が発表を行い、昨年度から今年度にかけて取り組んできた校区における連携教育を紹介しました。連携教育協議会における教職員間の取組だけでなく、幼小、幼中、小小、保中、小中間の児童と生徒の交流など様々な取組の様子を写真を交えて説明しました。

後半の分科会では、中学校区ごとに教室に移動し、保護者や地域の方々や教職員が輪になって座り、連携教育の意義や目的などを説明した後で意見交換を行いました。参加された方からは「2つの小学校が同じ温度感で幼稚園や保育園の子どもたちを迎えてくれることがありがたい。」「北中フェスタの様子を見て、中学生になるとここまでできるんだなと感心しました。」「娘が職場体験に行くととても良かったと話していた。自分がこの土地で育っていくという気持ちももってくれたら親として嬉しい。」といった感想が聞かれ、保幼小中連携の必要性についても感じていただけた様子でした。

中学校を卒業するまでの15年間の教育に連続性と一貫性をもたせることで、子どもたちがどの年代になっても安心して学び、楽しく生活できる環境を整えていきます。そして、有意義な経験を数多く積み重ねることで、校区の子どもたちの成長をより充実させることができるよう、今後もさらに連携を強化していきます。